教育目標　すくすく　ぐんぐん　にこにこ

令和４年４月２８日
第５３０号
北区立じゅうじょうなかはら幼稚園

園長　髙沢　ゆみか

自分はこれが好き

園庭のウメやアンズの木に今年も緑色の実が付き始めました。季節の移ろいを感じます。入園・進級から間もなく一か月が経とうとしています。子どもたちは、少しずつそれぞれのペースで新たな環境や生活に慣れてきています。年少ちゅうりっぷ組の子どもたちも、徐々に自分の「好きな物や場」を見付け、自分から関わって遊ぶ姿が見られるようになってきました。

先日、年長さくら組の子どもたちが、学級で「自分の好きなもの」の絵を描いていました。この活動を通して、担任は、子どもたちに伸び伸びと楽しく絵を描く経験をしてほしいと願っていました。食べ物や乗り物、好きなキャラクター、学級で楽しみにしながら少しずつ読み聞かせてもらっている物語の主人公、床屋さんのくるくる回るサインポール…好きなものはそれぞれに違い、どの子の紙面からも「好き」という気持ちが伝わってきます。自分の顔や大好きな友達を描く子もいました。目をきらきら輝かせながら「自分はこれが好き」という気持ちで描いている姿は本当に楽しそうで、近くで私が見ていると、どの子もうれしそうに自分の絵についての話を聞かせてくれました。

「自分はこれが好き」「これをしているときが楽しい」という気持ちで好きなことやものに夢中になっているとき、子どもは感覚を研ぎ澄まして心をたくさん動かし、頭を芯からしっかり働かせています。全身で感じ、よく考え、達成感や充実感を感じることができます。幼稚園教育で、子どもたちの自発的な活動としての遊び（好きな遊び）を一番大切にする理由がそこにあります。自分から興味をもち、「これが好き」「これがしたい」と思って遊びに関わるとき、子どもの中には好奇心が育まれ、探索や思考をして知識を蓄えるための基礎が培われていきます。そしてこれらが生涯にわたる学習意欲や態度につながっていくのです。

好きな遊びと言っても単に子ども任せにすることとは違い、幼稚園では、子どもたちが好きなことを見付けやすいよう、また、こういう経験してほしいという願いを込めながら、様々な準備や工夫をしています。目に留まりやすく手に取ってみたくなるような物の置き方、思わず入って触りたくなるよう毎朝柔らかく掘り起こす砂場、前日の遊びからさらにイメージが広がっていくようなきっかけとなるものなどを、教員たちが日々細やかに少しずつ変化させながら環境の中に仕掛けています。

爽やかな風が心地よい５月、子どもたちの心と体も弾みます。一人一人がどのような「好き」を見付けていくでしょう。私は、子どもが好きなことに向き合っているときの姿が「大好き」です。

今月の指導のねらい

＜ちゅうりっぷ組＞

・安心できる場や気に入った物に自分からかかわって遊ぶことを楽しむ。

・先生や友達と一緒に動いたり遊んだりすることを楽しいと感じ、自分なりの動きを表していく。

＜さくら組＞

・好きな遊びを楽しみ、友達と一緒に思いを伝えながら遊ぶ。

・戸外で伸び伸びと体を動かしたり、ルールのある遊びをしたりすることを楽しむ。